

理科十二月



石井研堂が、「子どもたちにな身近な日常の現象に留意する習慣を養うようにしたい」と、約百年前に著した子ども向け理科読み物を完全復刻。

佐藤 洋一 解題 クレス出版 発行

『理科十二ヶ月』の復刻について

福島県立博物館専門学芸員

佐藤 洋一



書斎の石井研堂 / 『異國漂流奇談集』(福永書店、1927年)より

石井研堂(本名民司、一八六五年―一九四三年)の多彩な活動のうち、明治期の子どもの向け理科読み物は、特筆すべき大きな業績である。研堂の理科読み物は、始めは、彼が主筆として編集した子ども向け雑誌『小國民』などに執筆して掲載した記事である。そして、それらを改訂増補して新規に執筆したのが、次のような単行本である。

○石井民司(研堂)著

『理科十二ヶ月』全十二冊(博文館、一九〇一年二月〜同年十一月)

『少年工藝文庫』全二十四冊(博文館、一九〇二年二月〜四年十一月)

『少年実験工芸百種』全一冊(博文館、一九二三年六月)

○石井民司(研堂)・堀七藏共著 ※この叢書は、一般読者も対象とする。

『常識叢書 第一編 電燈』全一冊(敬文館、一九一五年二月)

『常識叢書 第二編 電氣の利用』全一冊(敬文館、一九一五年二月)

これらの理科読み物単行本の出発点は『理科十二ヶ月』である。本書は、書名が示す通り、全十二冊が月あたりほぼ一冊の割合で今日のムック形式で発行された。その第一冊目にあたる『第一月 新風船』に掲載された『理科十二ヶ月を読む人に告ぐ』という創刊の辞の中で、研堂は、子どもたちに身近な日常の現象に留意する習慣を養うようにしたいと述べ、ワットやニュートンのような人物が日本の少年の中から誕生することを希求する旨、力説している。

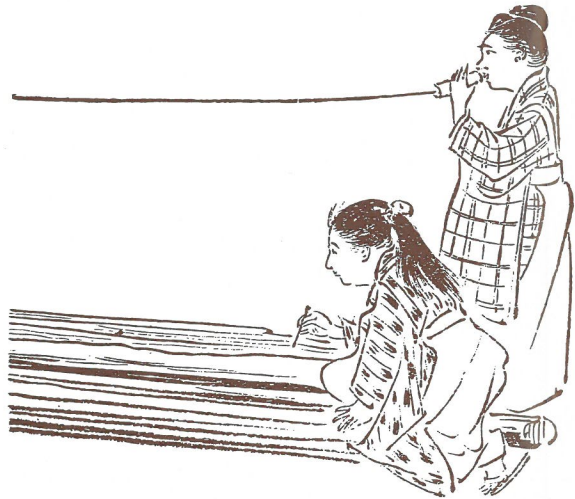
春川さんや秋山さんら子どもたちは、得意な分野に応じて主人公が入れ替わりながら、放課後に群れて遊ぶ。彼らは、創意工夫した実験や工作、観察、見学や聞き取りなどをして、知識の探究や問題解決を楽しむのである。文章は会話文体、問答体、紀行文体、手紙文体などいろいろあり、楽しくてわかりやすい挿絵が豊富である。これらは百年の時を経て、未だ輝きを失わない。

石井研堂の理科読み物は、ノーベル物理学賞受賞者朝永振一郎、金属学者山本洋一、翻訳家・劇場経営者秦豊吉(丸木砂土)などの随筆に見られるように、彼らの子ども時代の思い出深い、忘れることのできない愛読書であった。

今回は、『理科十二ヶ月』全十二冊の復刻版を刊行し、併せて、詳細な解題と細目とを付載して、今後の理科教育史、科学読み物論、児童文学・児童文化史、明治文化史、石井研堂論等々、各方面の研堂に対する関心の高い方々の利用に供したい。平成十五年(二〇〇三)、石井研堂没後六十年。まさに記念すべき復刻版刊行の企画である。

固體は
氣體より
良導なり

『それは、お前分ッてをるでは無いか。空氣のやうな瓦斯體のものは、木だの石だの金だの糸だのよりは、音を傳へる力が弱いからさ。長い材木の片ッ方に、耳をつけて居て、片ッ方を針のさきて少し擦ッても、よく聞えるが、耳を放せば、其音が聞えないのも同じいさ。と教へました。』



三十一

敵軍襲
來の地
響

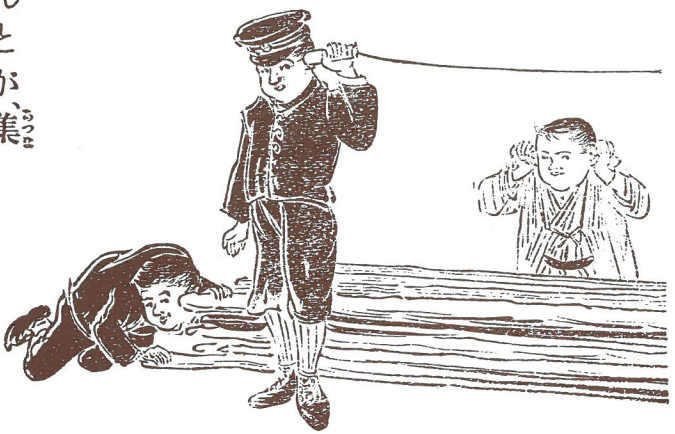
春川さんのいふ通り、固體は氣體よりも長く音を傳へるものであります。であるから、夜中などに、地べたへ耳をつけて、敵の襲ひ來るのを覺ることなどが、陸軍の教科書にも書いてあります。

第八回

問話會

蜜柑と鮭と、

例の中よし、春川さんと秋山さんとが、集ッて御話をしてをりました。



三十一

『理科十二ヶ月』構成

第一月 新風船

正月の遊びは紙鳶(カガミ)などであり、すがすがしい新風船は、すてきに興味の多い一讀すれば忘れること出来ません。

第二月 雪達摩

六花(雪花)紛々たる時雪達摩を作るのは、いと面白きことなれど、本書の興味はそれにも餘して愉快絶倫。

第三月 花の錦

三月なれば花の錦の春めきて記事皆な興味の多きを占む。

第四月 汐干狩

面白きこと春の汐干狩の如く一讀巻を敵ふ能はざるべし。

第五月 植物園

そろそろ草木も緑ならんとする此月植物園に於て百花の研究いと興あることならずや。

第六月 蜻蛉祭

暖氣につれいろいろの虫けらが生じます。そこで、とんぼ祭の一興、又たはつちやん方の好む遊戯であります。

第七月 游泳臺

夏期に於ける游泳何ぞ其快なる何ぞ其愉なる海國男子たる者必ず一讀せざるべからず。

第八月 富士詣

地を抜く一萬二千尺、脚登山を試みて勇氣勃々快又快ならずや。

第九月 暴風雨

年中第一の厄日たる二十日は平穩なるか暴烈なるか一年の國勢に大なる關係あり用心して見られよ。

第十月 銃獵者

兎を山林に獵り鳥を原野に逐ふ其快其興中々口に言はれませぬ。

第十一月 幻燈會

山林の明媚なる風俗の密なる教育上すべての物象を親しく目撃せらる妙なる哉。

第十二月 歸省録

學業休暇なれば久振にて古郷に歸り父母兄弟に逢ふて積る咄をせよ。

